

第1回 NITS 大賞（平成 29 年度）エントリーシート

舞鶴市立志楽小学校 畠中 成尚

A-32

【活動名】 学校安全に関する意識を高めるミニ校内研修の取組

解決すべき課題： どんな問題を解決しましたか？

- ・ 若手教職員が増える中で、学校安全に関する意識を高めること。
- ・ 児童の安全に関する意識を高め、自助・共助・公助について学ぶこと。
- ・ 有事の際に備えて、緊張感を持って実効性のある訓練を行うこと。

目的や背景： 解決すべき課題の背景や、活動の目的をおしえてください

- ・ 若手教職員が増える中で、学校安全に関する意識を高めたいと考えた。
- ・ 9月に行った地震による避難訓練（遊歩時）では、緊張感のない児童がいた。（話し声、ざわつき等）
- ・ 熱心に指導しているにも関わらず、1学期末の児童アンケート「災害や不審者対応などについて教えてもらっている」の項目で14%の児童が「あまり思わない」「思わない」を選択していた。

活動内容： 何をしましたか？

「研修成果活用部門」については、研修のどのような内容を活用して課題解決につなげたかがわかるように記載して下さい。

1 実態を踏まえた学習・訓練の必要性

(1) 児童の実態の把握

- ・ 児童アンケートの結果から、災害や不審者対応等の訓練について学習したことを忘れている。心に残る学習になっていない。

(2) 教職員の実態の把握

- ・ 教職員の意識改革・授業改善の必要性を感じる。教職員の大半が大阪教育大学附属池田小学校事件や阪神淡路大震災、東日本大震災の時は学生で、学校安全について「ひとごと」感がある。

(3) 実態を踏まえた研修にするために

- ・ 学校事故でのご遺族の話や災害安全危機管理体制等、研修で教えていただいたことはどれも「わがごと」感につながると考え、学校安全指導者養成

研修で学んだ学校安全についての項目の中で、教職員が知りたい・興味があることについてアンケートをとる。

- ・ 1番知りたい項目を5ポイント、2番目を4ポイント、3番目を3ポイント…として、回答アンケート結果の上位項目について「ミニ研修会」を行うことを決定する。

2 実践的な研修にするために

(1) 社会問題として、教職員の「多忙化」の中、1回の時間を5分程度として、「また続きを聞きたい」をコンセプトに、職員会議や校内研究会の後、「ミニ研修会」として実施する。

(2) 目的を明確に、内容をしばって、「概要、その時の教職員の対応、解決案」について話す。

(3) 教職員が危機感を持つように、当時の写真等を活用し、被害の大きさを伝える。「想定外への備え」の重要性を学ぶ。

(4) 児童の自助・共助・公助の精神を育てる大切さ等に重点を置く。応用力を育てる。（学びプロジェクトとリンク：活用問題に挑戦）

活動の成果： それによって、どんな成果が得られましたか？

- ・ 教職員の「学校安全」に関する危機意識が高まり、学校安全の指導に活きた。熱意や危機意識を持って指導を行うようになった。（2学期末の教職員学校評価では、学校安全に関わる項目で「A」と答える教職員が増えた反面、「C」と答える教職員も現れた。危機意識が高まったことで、課題が見えてきた。）
- ・ 2学期末の児童アンケートの結果では、「災害や不審者対応などについて教えてもらっている」で92%の児童が「強く思う」「そう思う」と回答した。教職員だけでなく、学校安全についての児童の危機意識も高まり、12月に行われた不審者対応の避難訓練では、「不審者の姿・声等を直接感じていないのに、緊張感を持って参加できた」「移動・整列に静かに真剣にできた」等の教職員からの評価や児童からの振り返りがあった。

アピールポイント（アイデア）： もっとも、がんばったこと、注目したことをアピールしてください。

- ・ 児童・教職員の避難訓練や事前・事後指導における態度に変容が見られるようになったこと。
- ・ アンケートをとり、教職員の興味のあることについてミニ研修会を開いたことで、教職員が意欲的にミニ研修会に参加できたこと。
- ・ ミニ研修会の時間を5分に設定することで、密度の濃い研修会を行うことができ、「続きを聞きたい」と続編を渴望する声が聞こえたこと。
- ・ 情報を少しでも分かりやすく伝えるために、パワーポイントを作成したこと。

毎回5分です。

9月27日～
文責：高橋 成尚

順	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
1	3	3													
2	3	3	1												
3	3	3	2												
4	4	3	3												
5	3	3	3	1	3	3									
6	3	3	3	3	3	3									
7	4	4	4	4	4	4	3	3	3	4	3	3			
8	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3			
9	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3			
10	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3			
11	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3			
12	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3			
13	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3			
14	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3			
15	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3			
16	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3			
17	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3			
18	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3			
19	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3			
20	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3			

7 大川小学校事故の教訓

- ① 児童の自防・互助・公助の意識を高める指導を行えるようにする。
(14%の児童が「避難訓練について教えてもらった」と答えている)
日本は海に囲まれた島国であり、異国にも海がある。
- ② 先立りに「万葉」を持っていただく。

東日本大震災とは？

2011年（平成23年）3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震による災害およびこれに伴う福島第一原子力発電所事故による災害である。

警察庁は、2017年（平成29年）3月10日、死者は15,893人、重傷者は6,152人、警察に届出があった行方不明者は2,553人であるを発表している。「ただし、未確認情報を含む、正確なものを含む」。日本国内で起きた自然災害で死者・行方不明者の合計が1万人を超えたのは戦後初めてである。

大川小事故の概要



東日本大震災 (H23(2011).3.11) の津波により、宮城県石巻市立大川小学校の児童・教職員84名が死亡・不明

大川小事故の概要

東日本大震災の津波により、宮城県石巻市立大川小学校の児童・教職員84名が死亡・不明

項目	内容
発生時刻	14:46
発生場所	大川小学校校舎
被害状況	校舎倒壊、児童・教職員84名死亡・不明
原因	東日本大震災の津波
対応	児童・教職員が避難し、保護者が救助活動を行う
教訓	避難訓練の重要性、児童・教職員の自防・互助・公助の意識の向上

大川小学校事故検証報告書 (平成26年3月)

目的は、「誰が悪かったのか」という事故の責任追及ではなく、「なぜ起きたのか」という原因究明と「今後どうしたらよいか」という再発防止である。

事故に対する2つの考え方 (柳田邦男)



なぜ多くの教職員がいながら、こんな悲劇が起きてしまったのでしょうか。

というわけで、今回は事故当日の教職員の動きをみていきます。

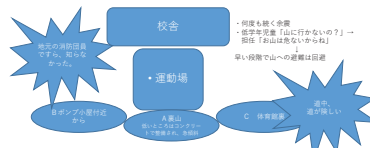
前回のまとめ

- ・責任追及ではなく、原因究明と再発防止が大切。
- ・引き取り訓練の重要性。

事故当日の動き (推定を含む)

- 14:46 地震発生 (揺れの継続は約3分)
- 14:49 津波警報 (大津波) 発表、予想津波6m
- 児童・教職員、校庭へ二次避難
- 14:52 防災行政無線による広報 (津波警報発生)
- ↓
- 15:00 教職員A「山へ行か」→「この状況では難しいのでは」

山とは？



裏山



その時の教職員の動き

- ・訪れる保護者への児童引き渡し
- ・教職員Aが大川小学校が避難所になるかもしれないので、体育館に確認→灯油漏れ→教頭へ報告
- ・教職員Aが校長や市教委に連絡→つながらない
- ・教職員Aが特設電話の存在に気が付き、体育館に

その後

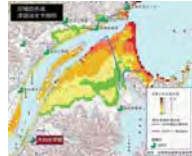
- 15:14 津波警報 (大津波) 予想津波高10mに変更 (ただし、報道はテレビのみ)
- 多数の教職員は児童の姿を持ち出すために校舎内へ
- 15:20 引き渡しの際に忘れられた教師がアムロのかまどとまきを運搬
- 15:21 予想津波高10mをFMラジオが放送
- 15:23 市職員が学校へ立ち寄り「体育館は使えるか？」
- 15:24 市職員が学校を出る
- スクールバスが学校敷地内に入る
- 教職員A「山に逃げますか」→返事、指示がないため2階へ
- 15:25～15:30 市職員が松林を超える津波を目撃し、Uターン
- 避難を呼びかける
- 「聞き取るのができなかった」「尋常な声ではなかった」

- 15:32 予想津波高10mをAMラジオが放送
- 15:33～34頃 地域の声で「三角地帯への移動を決定」
- 教職員K以外の児童・教職員が避難開始
- 教頭「津波が来ています、急いで」
- 教職員A 校庭に戻り、避難の列を小走りで進む
- 大橋付近の越流が三角地帯を覆う
- 15:37頃 陸上週上津波が大川小学校に到達

被害がここまで大きくなってしまった理由

- ① 津波による津波伝達設備の不足
- ② 津波警報の伝達手段の多岐にわたる
- ③ 津波警報の伝達手段の多岐にわたる
- ④ 津波警報の伝達手段の多岐にわたる
- ⑤ 津波警報の伝達手段の多岐にわたる
- ⑥ 津波警報の伝達手段の多岐にわたる
- ⑦ 津波警報の伝達手段の多岐にわたる
- ⑧ 津波警報の伝達手段の多岐にわたる
- ⑨ 津波警報の伝達手段の多岐にわたる
- ⑩ 津波警報の伝達手段の多岐にわたる

ハザードマップ



「学校安全」とは

- ・「未然防止に努めること」
- ・「万が一、事件・事故・災害が発生した場合には、被害を最小限にするための対応のこと」
- ・「想定外への備え (応用力を持つこと)」

大川小学校の事後対応

- 初期対応
 - ・校長：より早期に現地に入り、自ら確認・情報収集し、市教委に伝える
 - ・「行けなかった」→実は行けた→17日に初めて目の当たり
 - ・「児童等」被害状況が明らかになった時点で対策本部を立ち上げ、対策を大川小学校対応325→「先生がほぼ全滅は想定外」
 - 児童・遺族への対応 (保護者説明会で)
 - ・冒頭「1時間終了」と告知
 - ・市長：「宿命」発言、今後の説明会の予定なし
 - ・市教委責任、市長を含む市役所全体の問題として対応する姿勢なし
 - ・生存教諭による保護者への説明

では、どうすれば？

- ・ヒューマンファクター (人的要因)・・・別紙
- ・スイス・チーズモデル・・・別紙
- ・アサーション (異論を言うこと)

職員室の風通しを
どんどんよくしていきましょう！

最後に

複数回にわたり、ご清聴ありがとうございました。

次回からは、先生方の関心が2番目に高かった「大阪教育大学附属池田小学校事件」についてお話しさせていただきます。

講師「大川小学校事故検証報告書」の執筆
経験から得た教訓を共有し、今後の対応に活かしていただく
機会をいただいております。ご清聴ありがとうございました。

出典

平成29年度学校安全指導者養成研修 (首席 由紀) 講師資料
ウィキペディア
<https://matome.naver.jp/odai/2148011385631496401/memory/ever.jp>